一般社団法人日本医療薬学会　第 76 回医療薬学公開シンポジウム開催報告書

実行委員長　伊東　弘樹
（大分大学医学部附属病院　副病院長・教授・薬剤部長）

令和元年 11 月 24 日（日）J:COM ホルトホール大分において、第 76 回医療薬学公開シンポジウムを開催した（主催：一般社団法人日本医療薬学会、共催：大分県病院薬剤師会、後援：公益社団法人大分県薬剤師会)。シンポジウムのメインテーマは、「医療における理想的な地域連携の実践」とし、基調講演、シンポジウムならびに共催セミナーを企画した。総参加者数は 122 名（医師 5 名、病院薬剤師 85 名、薬局薬剤師 15 名、大学教員 3 名、その他 14 名）と、県内外から薬剤師をはじめとする多くの医療関係者の参加があった。

初めに、基調講演①として、東京大学大学院医学系研究科老年病学 教授 秋下 雅弘先生より、「ポリファーマシー対策と地域連携」というテーマで、高齢者のポリファーマシー対策の具体的なポイントについての講演があった。さらに地域連携を充実させるためには、病院薬剤師からの情報として、薬局薬剤師およびその他の地域包括ケアシステムに関わる全ての医療関係者に対し、処方薬剤や薬剤使用時の留意事項などの情報提供が必須であると解説された。それに加え、薬局薬剤師からの情報も大切であり、双方向での情報共有の重要性を強調された。

また、シンポジウムのセッションにおいては、本会のテーマに基づき、慢性腎臓病（CKD)、糖尿病、がんの分野で活躍されている県内外の先生方より、各分野における地域連携の取り組み事例の紹介があった。熊本赤十字病院 薬剤部の下石 和樹先生は、「CKD シールを活用したインタラクティブな情報共有」というテーマで、熊本県における「CKD シール」活動について紹介され、活動を開始するに至った経緯、実際の運用方法ならびに地域連携における有用性について講演された。臼杵市医師会立コスモス病院 内科 近藤 誠哉先生は、「大分県臼杵市における地域ぐるみの糖尿病重症化予防の取り組み」というテーマで、「糖尿病性腎症重症化予防プログラム」に対する取り組みの成果について講演された。大分大学医学部附属病院薬剤部の龍田 涼佑先生は、「大学病院薬剤師が目指すべきがん治療の地域医療連携」というテーマで、がん治療の地域格差を是正するために設置された「がん薬物療法に関する相談窓口」についての紹介や保険薬局向けの「経口抗がん剤研修会」の実施について講演された。

次に、基調講演②として、ファルメディコ株式会社 代表取締役社長 狭間 研至先生より、「薬薬連携～明日から取り組める地域連携の実践～」というテーマで、地域医療の実践の中で求められる連携のあり方についての講演があった。薬局や病院の運営に携わる医師の立場から、薬薬連携の実践例をお示しいただき、地域医療の中で求められる連携のあり方について解説された。

その他共催セミナーとして、大分大学医学部神経内科学講座 准教授 木村 成志先生は、「treatable dementia を見逃さない！～高齢者てんかんとの鑑別～」というテーマで、てんかんを中心に先生がこれまで経験された症例を提示され、診断と治療のポイントについて解説された。また、九州大学病院別府病院 病院長 免疫・血液・代謝内科 教授 堀内 孝彦先生からは、「関節リウマチの病態と治療 Update」というテーマで、リウマチ薬物療法の歴史を振り返るとともに、最新の薬物療法について講演された。なお、すべての講演において多くの質問があり、会場との活発な意見交換ができた。

最後に、本シンポジウムにて講演いただいた先生方、座長の労をお取りいただいた先生方に厚く御礼申し上げます。